

「東京で一番楽しい子ども時代を過ごそう！」

HILLOCK 初等部について

2022年4月開校に向けて

NPOソダチバプロジェクト
代表理事 堺谷武志



HILLOCK初等部の構想について



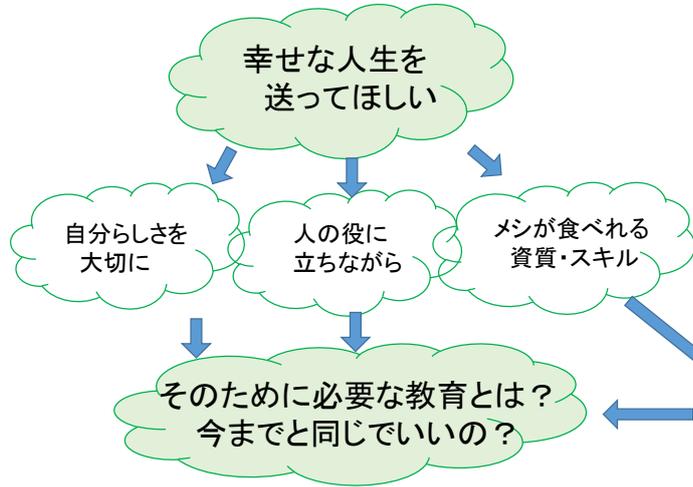
1. キンダーと同じ部分：自然×人×先進の学び
2. キンダーと異なる部分
 - ① 言語への考え方
 - ② 学びが高度化
3. スクール概要

ここを少し詳しく

保護者の想いと環境

キンダーと同じ(おさらい)

保護者の想い(突き詰めると...)



外部環境: 不確実な時代

- テクノロジー・人工知能(AI)
- グローバル化
- 少子高齢化

例 企業の寿命が短くなる
知識・スキルがすぐ陳腐化
インドやアフリカが台頭

必要な資質やスキル例(これすら変わる)

- ・転職や起業ができる勇気・スキル
- ・変化に臆しない/常に学び続ける意欲
- ・多様性(世界)とつきあうしなやかさ

日本の学校の状況



この多様化の時代に「選択肢がない」ことが問題





ワイルド&アカデミックな環境で「育ち」を勝ち取る

- 人類の進化に沿った育ち(学びの前に育ち)
- 時代に合った先進的な学び
- 子ども視点に立ち戻る(大人が盛りすぎない)

HILLOCK (全日制スクール～認可外)



1. 自然とのふれあい～人も動物/嗅覚をみがく

2. 人との深いふれあい(少人数/シェルパ制)

～上記1. 2. の身体的体験の幅と厚みが人生の基礎になる
(都会における育ちの環境は危機的な状況～“ザリガニ”がない)



3. 先進の学びにふれる(STEM/Art/Entrepreneurship etc)

ワイルド(1.2.)&アカデミック(3.)な環境で
子ども時代を楽しみぬく

HILLOCKが子どもにもってほしいこと

キンダーと同じ(おさらい)



Confidence

「自己肯定感」「自己効用感」

- ・自分らしさを大切に。物怖じしない
- ・自分は人の役に立てることを実感する



Collaboration

「多様性の尊重」「チームワーク重視」

- ・違いも含め他者も正しくありうると理解
- ・力を合わせるためのユーモアと規律



Creativity

「幅広い知識」「一歩踏み出す勇氣」

- ・世の中のワクワクをたくさん見てみる
- ・とにかくやってみる(作る・表現する)

人と比べることなく、自分らしく楽しむ(⇒ 幸せへの第一歩)

HILLOCK 初等部の概要



- 定員: 36名(6名×6学年)~当初1・2年生のみの募集を想定
- クラス: 月~金/9:00~15:30(6時間程度?)
- 運営: NPO法人ソダチバ・プロジェクト私塾(地元公立に籍は置く)
- 教員: 現小学校教諭2名で開始<2011年採用し、カリキュラム具体化>
- 場所: 現キッズアイランド砧公園校(予定)=通学バス予定

HILLOCK 初等部の概要



年間予定:	一学期 4月2週～7月3週 二学期 9月1週～12月3週 三学期 1月2週～3月3週
休み:	土日祝は休み、夏休み、冬休み、春休み 調査準備日あり(クラスの質向上のための休み)
イベント:	夏季(サマースクール、サマーオープン等) 季節のイベント、キャンプ、参観、保護者会等
その他:	ランチは弁当持参/通学バス(林試の森⇄砧公園)

HILLOCK 初等部の概要



開校(計): 2022年4月 砧公園の隣(世田谷区上用賀5-23-2)

費用: 学費はキンダーと同程度を想定



NPO ソダチバ・プロジェクト主要メンバー



堺谷 武志
(さかい たに たけし)
キッズアイランド代表

都銀で国際ビジネスに従事後、プリスクール・キッズアイランドを設立。ソダチバ・プロジェクトを手掛ける。京都大学、USC大学院(MBA)、保育士



野村 竜一
(のむらり ゆういち)
ISSJ準備

コンサルティング、マスコミ等を経て、ロジカル・シンキング塾ロジムを創立。現在、International School of Science創設準備中。東京大学教養学部

外部サポート



炭谷 俊樹
(すみ たに としき)
ラーンネット代表

マッキンゼー勤務後、20年前にラーンネット・グローバルスクールを立ち上げ。神戸情報大学院大学学長。



中村 一彰
(なかむら かずあき)
ヴァイリング代表

ベンチャーでの企画業務経験後、教育起業。STEMON、BOKENなど先進的プログラムをリリース。2017年にはCEO兼教師として学校現場でも活躍。



村田 学
(むら た まなぶ)
教育ジャーナリスト

アメリカ生、日本育ち。インターナショナルスクール・タイムズを創刊・編集長として日米の教育現場取材。Global Educational Partners取締役。



長井 悠
(ながい ゆう)
ハバタク代表

IT系コンサルタントを経て、ハバタク、タクトピア創業。教育や社会をイノベーションするプロジェクトを次々立ち上げ。東京大学院卒(ハッハ研究)

HILLOCK 初等部のシェルパ(候補)



私の知る限り、ベストの人たち(人柄、考え方、スキル等)

Mさん

- 36歳、既婚、子ども2人
- 公立小各主任、メディア・共著など
- 先進ICT～障害者教育からくる深い洞察力と楽しい人柄

Yさん

- 35歳、既婚
- 私立小でバカロレア(日)を立上げ
- 生徒へのまなざしが優しい人。作曲・DJも。

(教育はイメージで語られる過ちに陥りやすい(床屋政談化)が…)

⇒「専門家(教師)」×「社会的視座」を高くバランスさせるところに解あり

HILLOCKの特徴

キンダーと同じ(おさらい)



1. 自然とのふれあい ⇒「楽しむ力(=生きる力)」の根源

2. 少人数制 ⇒「自己肯定感」を全力でサポート

3. バイリンガル環境 ⇒ 多様性の理解

4. 先進の学び ⇒ 幅広く知り、一歩踏み出す！

} ここが少し
変わってきます

初等部の言語について

キンダーと異なる部分



考え方: ①母語でしっかりとした教養を身につける
+ ②英語で世界を広げる(本人希望にもよる)

• 教養 = 「幅広い知識」 + 「深い思考力」

• 思考を深めるには知識(語彙)が必要～教養人の母語 5万語

• 時間は有限、知識 × 思考力を両言語で求めるのは...

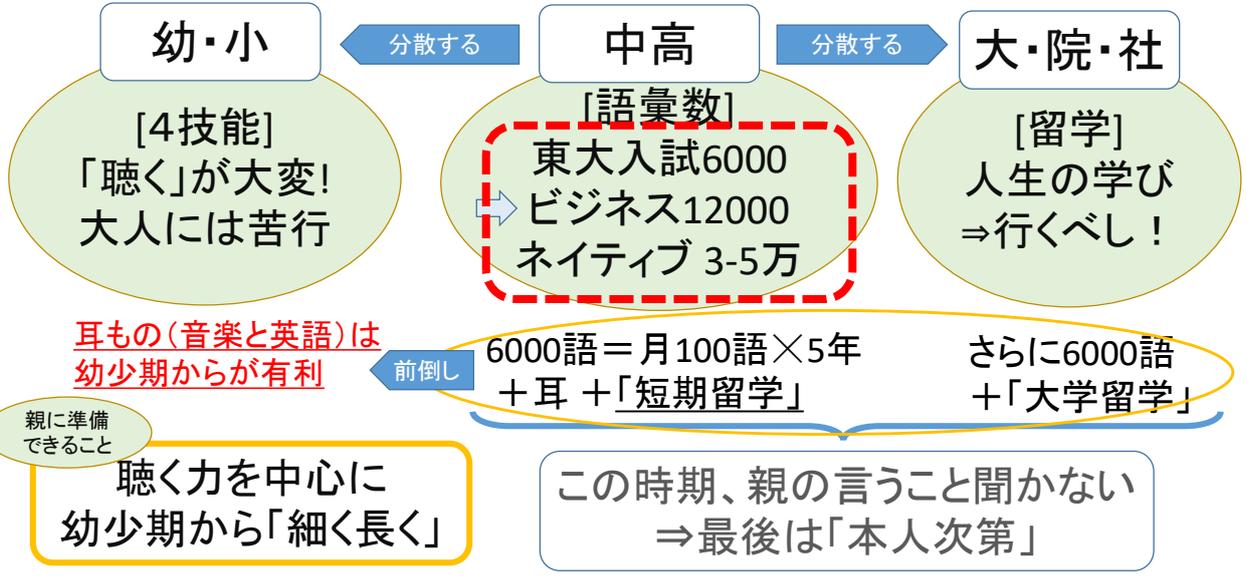
「2倍勉強しろ(語彙を覚えろ)」ということ

⇒ 学びを楽しめるのか疑問

日本語・英語の両方が中途半端になる事態は回避すべき(日本語優先)

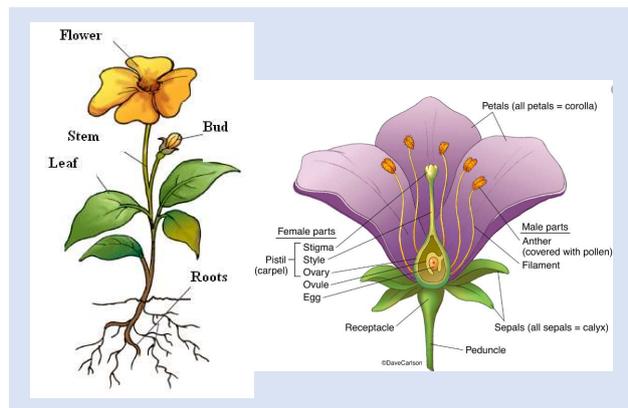
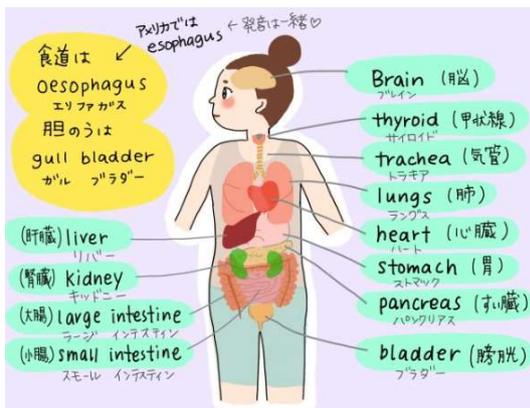
初等部の言語について

キンダーと異なる部分



初等部の言語について

キンダーと異なる部分



教科の学びとは: (例) 単語を覚える + どのような機能かを考える + 意味...
時間は有限: どこまで「英語を」、どこまで「英語で」やるか ⇒ 絞り込みが必要

初等部の言語について

キンダーと異なる部分



英語の時間イメージ: 週の15%

- ・英語を学ぶ: 毎日30分(基礎、個別IT活用)
 - ・英語で学ぶ: 科目を学ぶ(国語・理科等50分×2)
- ⇒バイリンガルの下地を作る(語彙数、WPM等の目安値を持つ)
- 検討事項: それ以上を目指すには? 放課後クラスを作るかどうか?
楽しみながら取り組めるか(⇔大人が盛りすぎない)も課題

・初学者との
バランスも要考慮。
・深掘り必要

HILLOCKの特徴

キンダーと同じ(おさらい)



1. 自然とのふれあい ⇒「楽しむ力(=生きる力)」の根源
2. 少人数制 ⇒「自己肯定感」を全力でサポート
3. バイリンガル環境 ⇒ 多様性の理解
4. 先進の学び ⇒ 幅広く知り、一歩踏み出す!

ここが少し
変わってきます

初等部の先進の学びについて



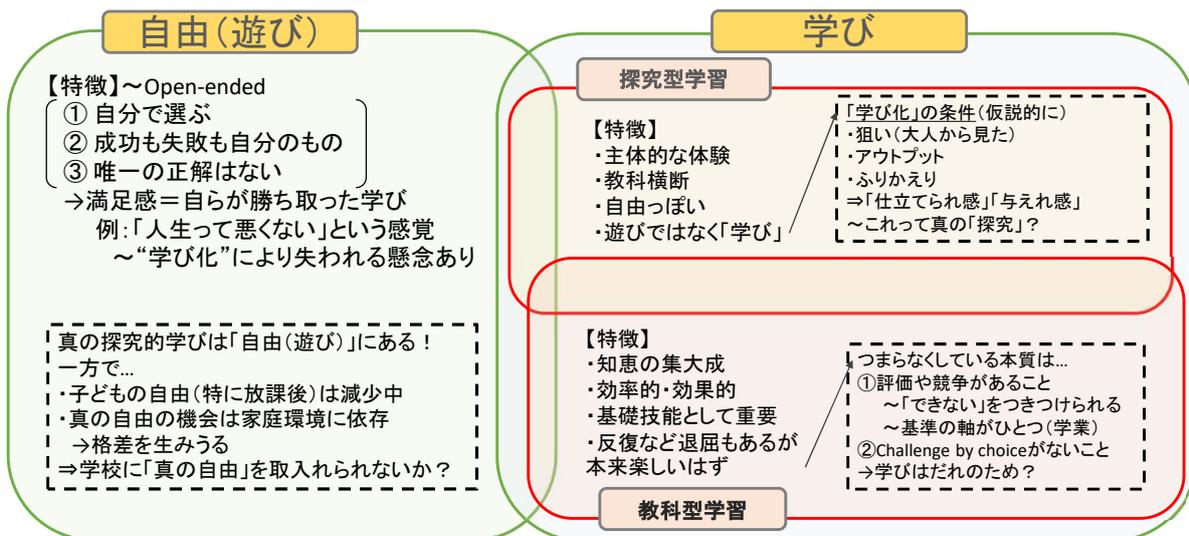
先進の学び⇒ 幅広く知り、一歩踏み出す！

	N ature 自然とのふれあいを通して野性味をみがく
	E ntrepreneurship 起業家精神で人のためになって、自分もハッピーに
	W isdom 生きる智慧(哲学)を身につける
	STEAM 知って、考える。そして、作ってみる

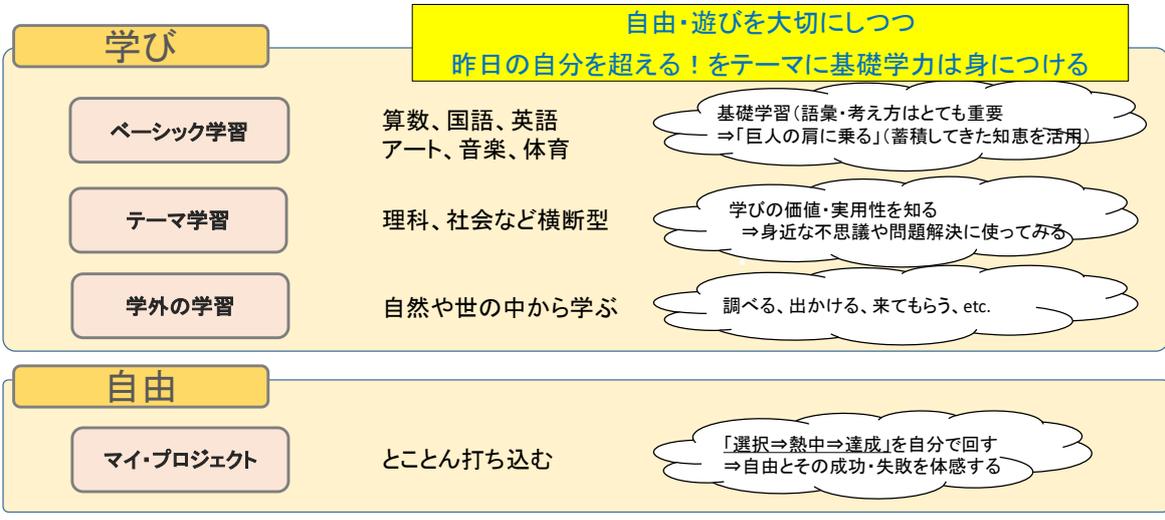


学びの羅針盤を
手に入れよう！

学びと自由・遊びのあり方

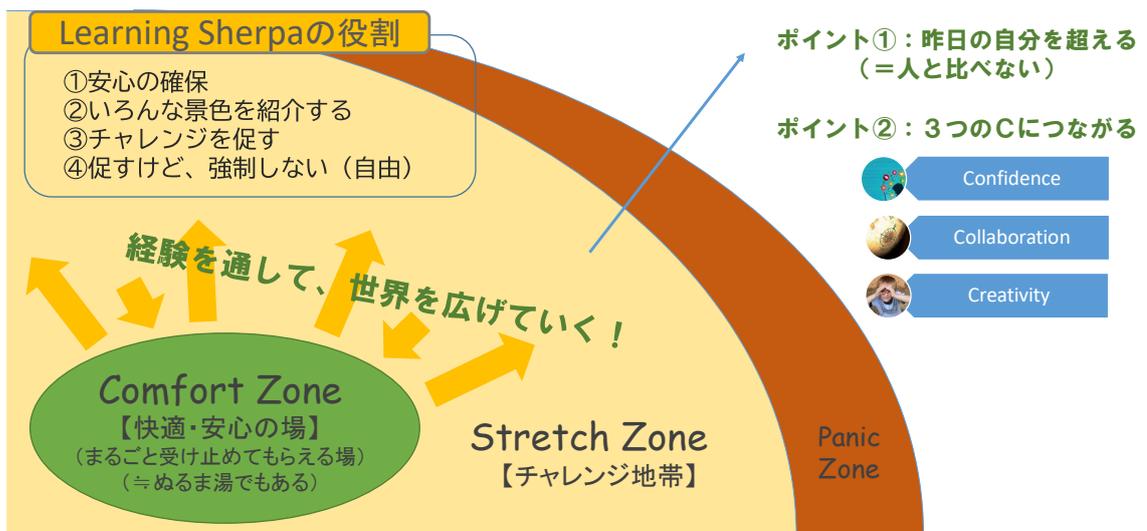


学びのあり方



楽しいのはいいが「遊んでただけ」でも困る ⇒ 「知を愛する態度」は一生の宝

自由・安心・チャレンジ



HILLOCK 初等部募集に関しまして

<2022年4月募集>

人数:	6～12名程度(小1～小3)
受付開始:	2021年4月
選考:	クラス体験と面接(HILLOCK生は面接のみ) ①保護者が方針を理解、②安全面で問題がない、③特別な対応が不要
その他:	入学時点での英語力は問わない

入学にご興味ある方(程度は別にして)、ぜひお声掛けを！

～今後の展開に(設備準備、外部募集の規模等の全ての面で)とても大きな影響があります

<ご参考①>

オルタナティブ・スクールとは？

事例：参考にしているスクール

ラーネット・グローバル・スクール

- ・1996年、神戸の六甲山に設立
- ・設立者：炭谷俊樹さん

元マッキンゼーでデンマーク勤務後、日本の教育の有り方に疑問を持ちラーネットグローバルスクールを設立。神戸情報大学院大学学長

東京コミュニティー・スクール

- ・2004年、東高円寺に設立(2014年中野に移転)
- ・設立者：久保一之さん

大手サービス業で人事・教育を経た後、起業(人材派遣分野)
ブレイクスルー大学・大学院の教授兼任、外国人派遣会社経営

国内のオルタナティブ・スクール事情



FQA: オルタナティブ・スクールって大丈夫なの？

Q: 文科省認可の学校ですか？

A: 文科省認可の学校(いわゆる一条校)ではありません。生徒は公立小学校に学籍を置き、オルタナティブ・スクールに通います。インターナショナルスクールに通うのと同形態。小学校は義務教育なので、登校しなくても進級・卒業資格は得られます

(2017年「学習機会確保法」施行により学びの多様化の方向性)

Q: 進路はどうなりますか？

A: 小学校卒業後の進路は、私立中学、インター、(公立中学)に進学するケースが想定されます。

(ヒアリングによると、LGS、TCSでは、いわゆる偏差値ではなく、将来の目標に応じて選ぶことが多いとのことでした。一流校は結果とのこと)

国内のオルタナティブ・スクール事情



Q: 学力は大丈夫ですか？

A: 算数などの基礎学習、グループや個人のテーマ学習などによって、知識だけでなく、より深く総合的な「学びの力」を身につけるのが狙いです。(国の方針を先取りすることにも)

Q: 費用は高いですか？

A: 助成金などもないため、運営費用(物件費や人件費)がそのままかかります。公共施設、企業等の外部リソースも活用して可能なところを抑えているようです。スクールによりますが、インターナショナルスクール(200~400万円/年)の半額程度(100~140万円程度)が主流です。

少人数制で世界基準を意識したハイクオリティな教育を受けるメリット、および費用や体力でも習い事を含めトータルで考える方が多いようです。

<ご参考②>

シェルパ候補との協働プロジェクト(抜粋)

<共通の知人 ⇒ 外部研修で同チームでプロジェクト ⇒ 新しいスクール創りで意気投合>

学び、自由、遊び(数十時間の議論から抜粋)

自由や窮屈さ

“なんか学校ってルールばかり。やらないといけないこととやっちゃいけないこと、で構成されていて、本当はその間にどっちでもいいことがいっぱいあるはず。それを何でも決めてたら、自由になれないし、考えるチカラもつかないよ”

“学びにある種の抑圧は伴わざるを得ないとしても、なんかもうちょっと圧迫感は除かれるべきだと思う。”

障害者やGiftedの学び

“giftedも重度の障害児も、押し並べて「生きづらい個性」を抱えた一人として包含できるモデルじゃないと、やっぱり嘘があるよな一と思うんです。学びのために教育があるし、教育のために学校がある。教育が学びを選別すべきじゃないし、学びが人を選別すべきでもない。人が、学びを選別すべき。”

自由・遊びからの学び(実践)

“自然の中の子どもを見ていると、心からの笑顔。一生使える深い学び。真の自由からの学びってこういうことでは。ここには付箋に書いて整理してとかの大人の介入はいらない。でも、連れて行ってもらえるかは家庭環境によるので格差要因になるかも。”

“僕らの遊びの実践も、LCLの探求学習も、どこか大人どもの誘導みたいな要素入っていますよね。”

学び内容や評価

“問題は学びの手段と目的、解き方と答えの範囲が狭いこと(≒自由ではない、とも言える)」「好奇心や感動、発見することの喜びや相手を思いやり誰かに貢献したい気持ちは優先度を落とされがちなのかなと。”

“もし仮に毎日プールだけやる学校があったとして、そこで泳げないままだった時「君は勉強できるからいいんだよ」って言われても、あんまり救われない。”

学びとは？～現代日本の学びの環境(感覚論)

現実の社会

やらないといけないこと(ルール・慣習)

自由/価値観による
(多様化で増える→対話で折り合い)

やっちゃいけないこと(法律)

小学校

やらないといけないこと
(教師が決めたルール)

自由(子どもが決める余地)は減少

やっちゃいけないこと
(教師が決めたルール)

≒優秀で素直、黙っていうコトを聞く場

明治初期

学校=自由&管理
(農作業・丁稚からの解放)

放課後=束縛
(家事、仕事)

昭和後期

学校=管理

放課後=自由
(自然、友達、暇)
=自立の機会

今

学校=管理

放課後=管理
(学童、習い事、危険)

子どもの自由(自立の機会)が危機的状況

一番の問題点:子どもは自らはこの環境を変えることがむづかしい(→大人の責務)

学びとは？～学校の二つの機能

とはいえ、寺子屋のように学びたい人が自主的に選択して集まった場ではない事実。

この向きを構造的にせめてイコールにさせることは可能か？(世界的課題)

(1) 行政の一機関

法律

日本政府(文科省)

地方自治体(教育委員会)

公立(≒支店or区役所)

私学≒現法

教室

教室

教室

教室

役割として、子どもに自由を与える自由を現場に渡してもいいのか？

【行政の原理】法律に従ってのみ行う

- ・原則＝創造性より安定的に運営すべき場
 - ・官僚文化＝前例踏襲の保守的行動が奨励
 - ・恣意的行動で国民の自由・権利を阻害しない(変な校長が変なことをしないように、全員を縛る必要性?)
- ⇒教師も公務員的な動きが優先されるべき？

(2) 子どものための場

【思いのある若い教師の思い】

- ①一人ひとりの個性・状況に寄り添い
- ②楽しくて主体性のある学び、を提供したい

もしそんなことをしたら...(上司や先輩から指導?)

- ・クラスに落ち着きがない。なめられているからだ。
- ・勝手なこととしてクラス成績が悪かったらどうする
- ・指導要領とずれている。
- ・保護者からクレームが来るぞ。

子どもに自由を与えられる状況か？

現実問題として...(多人数学級、増え続ける業務等)

「あなたが35人兄弟の子どもを持つシングル・ファーザー(マザー)だと想定したら...」

- ・自由にさせて收拾がつかますか？
- ・一人ひとりの気持ちをくみとれますか？

⇔ギャップありそう

「だから学校が窮屈！」は仕方ないのか？

遊びとは？～Project Adventureの根幹と一致

“遊び”に関する考え方

プロジェクト・アドベンチャー

“遊び”こそが、PAの3大要素

- ・Full Value Contract
 - ・Challenge By Choice
 - ・Experiential Learning Cycle
- をナチュラルに満たす行為。
しかも、子ども主体で！

遊び＝自由＋ルール

ルールは自分たちのもの(＝大人・先生に決められたものではない)。だから、変えることもできる
⇒自分達が「一般意志」を形成しているので“有用感”を持つ

遊びのルールは守られなければならない。
一方で、守らなかった人をゆるすことも必要。
⇒「約束と赦し」の練習

勝ちを誇り、負けを受け入れる。
⇒勝つために戦略を練り、時にリスクをおかす。
負けた時のふるまいが人の気品を決める。

遊んでこなかった人は信用できない。
なにより、遊びは楽しい、遊びは文化であり人生！

自由とは？～二つの自由概念

自由は...
歴史的経緯から政治的な文脈
で論じられてきた。
パンクバンドや尾崎の叫ぶ自
由とは少し異なる。

バーリン(Isaiah Berlin)による分類

消極的自由(不干涉)

やりたいことを干渉されない
(他人に害を及ぼさなければ)

- Pros: 自由が最優先されるべき。
多様性が社会を発展させる
- Cons: ただのわがままでしょ？
社会全体のためにならないよ

ミル、バーリン

積極的自由(自治)

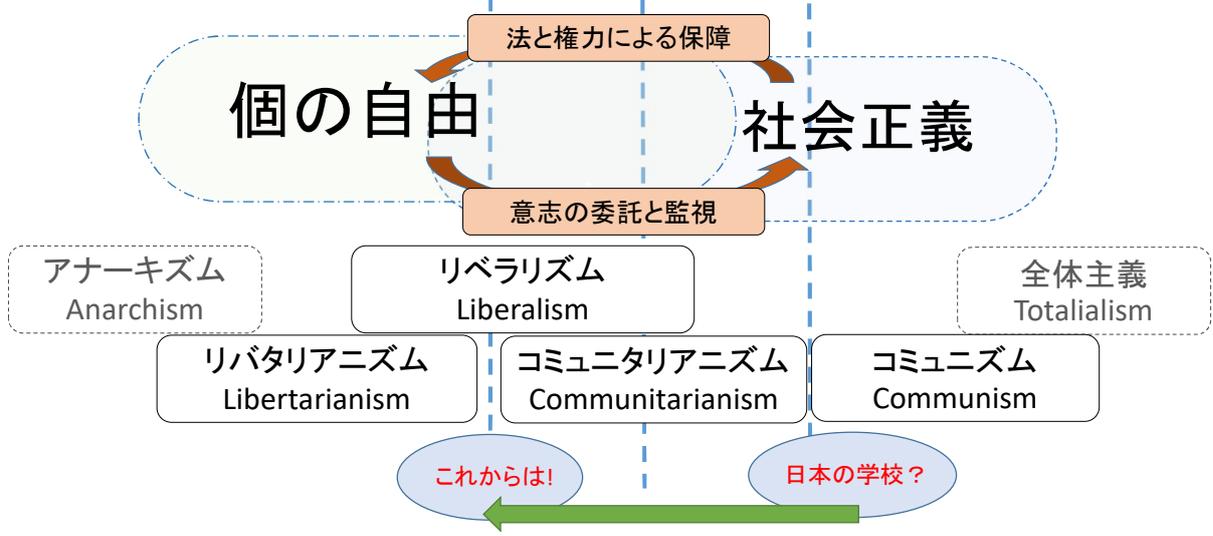
意志と力能で勝ちとるもの
(そのために修養が必要)

- Pros: 磨かれた人格あってこそ。
より崇高そうな感じがする
- Cons: 自己支配により強要しうる。
「奴隷も自由たりうる」

ルソー、ヘーゲル

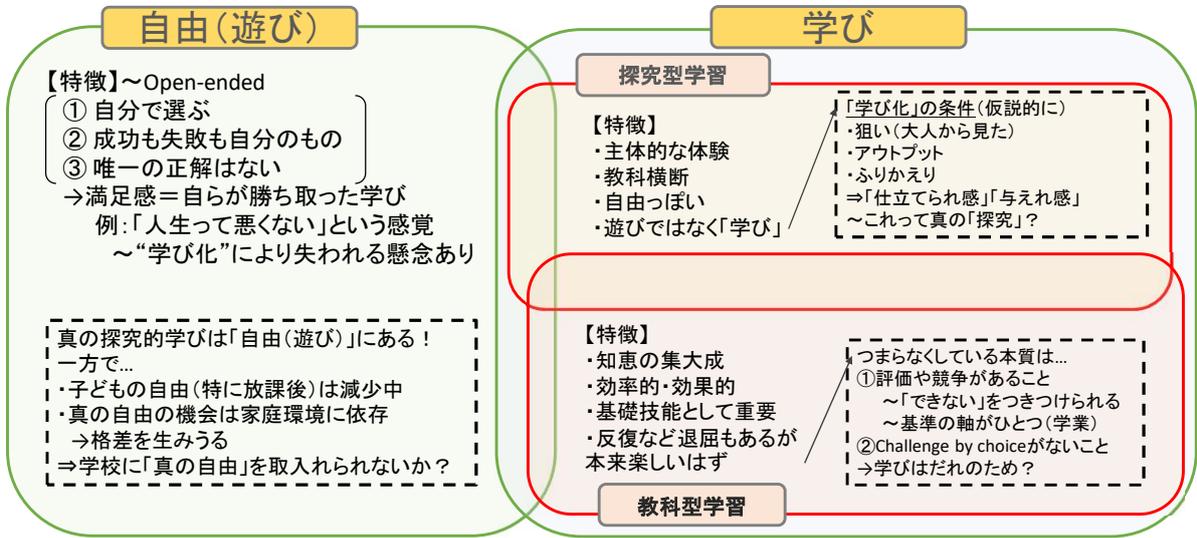
自由とは？～自由と正義(個と社会)

「個の自由」と「社会正義」の間のどこで線を引くか？



自由と学び①

ミニ問①「自由の学校への取入れ」



自由と学び② 教室内の自由

ミニ問②「教室をより自由な場に」

